

## 筋骨格系 TAG 進行状況報告

国際 WG 協力員  
日本整形外科学会  
ICD-11 検討委員会委員長  
加藤真介

筋骨格系 TAG (MSK-TAG)の現状

- MSK-TAG は 2011 年 1 月の Face-to-Face meeting 以降、大きな進展は見られていない。この点について、JOA ICD-11 委員会から MSK-TAG Chair に何度も働きかけを行ってきたが回答が得られなかった。
- 今回の第 5 回内科 TAG Face-to-Face meeting から得た情報から MSK-TAG の活性化が不可欠と考えられたため再度アプローチした結果、最近になって MAK-TAG chair から、これ以上役目を果たせないで日本整形外科学会が中心となって活動してほしいとの返答があった。
- MSK-TAG co-chair である清水克時岐阜大学教授と善後策を検討の上、加藤が MSK-TAG のもう一人の co-chair である Prof. Woolf と 2 月 22 日ロンドンで面談し、在スウェーデンの Managing editor の Ms. A. D-Wahl とは Skype でつなぎ、今後の方針を検討した。結果は以下の通りである。
  - 現在 WHO が提案している ICD-11 の構造は MSK-TAG の基本方針と一致している。Extension code も、論理的な展開を行うために多層化しようとしてきた事を助けるものである。ただ、現在公開されている β 版では Spine など従来の方針に従って入力されている部分でも、下位層が反映されていないため、不十分なものとなっている。
  - 他の部分についても見直しが必要であるが、今から 3 月末に向けて WG の再活性化は困難であるので日本整形外科学会が作業を行う。
  - Managing editor の Ms. A. D-Wahl は、これに対して協力し入力作業を行う。
  - TAG chair の活動については、Bone & Joint Decade steering committee に判断をゆだねる。

日整会 ICD-11 検討委員会の今後の活動方針

上記を受け、3 月 3 日に ICD-11 検討委員会を開催し、今後の活動方針及び β 版を検討した。その結果、下記のような方針を決定した。

- 委員が分野を分担し検討を行い、3 月中旬を目途にまとめる。これを Managing editor に送付する。
- 当面は基本骨格の改訂に集中し、extension code の詳細、definition については 4 月以降の作業とする。

- 他の TAG の overlap がある程度起こる事を承知の上で、underlap が起こらないようにする。

現在、上記の方針で作業を進めるとともに、週一度の Web 会議を Prof. Woolf、MSK-TAG WG 長、内科 TAG rheumatology WG 議長 針谷教授、内科 TAG Managing editor Ms. J Rust、加藤のメンバーで開催し今後の作業方針になどについて検討している。